

花粉症の季節。。。ツライですね。。。防塵メガネは効果が高いようですヨ。。。 By かじ

♪♪第16回定例会（2月議会）における梶議員の一般質問要旨を以下に報告いたします♪♪

★人口減少社会で、沼津市はどうするべきか！

日本の将来推計人口（国立社会保障人口問題研究所発表）は、2010年1億2806万人の人口が、2030年に1億1600万人余りへ減少、さらに **2048年には1億人を下回る**と推測されている。

年齢区分別の人口推移を見ると、減るのは64歳までの生産年齢人口で、65歳以上は総人口が減少しても増加傾向となっている。**日本の高齢者率は2010年に20%を超え、早くも2024年には30%の大台に乗る**と予測され、急速な高齢化が進んでいる。我がまち「ぬまつ」は、どうするべきか！

★地元で就職をするんだっ！（生産年齢人口増加と商工業の持続政策の必要性）

Q：人口数減少社会の中、労働力人口確保は、沼津市の経済にとって重要な要素であり民間企業だけでは対応し切れない状況になる。その対策として、地元採用が有効な手段であり、市外への転出者に対し、**市内就職を支援する施策**と同時に、**雇用の受け皿である企業政策が必要**と考えるが？

A：人口減少や、大都市圏への人口流出が進む中、地域経済社会の持続性の確保に当たっては、雇用の場の創出と労働力の確保が重要であると認識をしております。企業支援策は、以下の通りです。

- ①産業競争力強化法に基づく創業支援事業計画により、産業支援機関や、金融機関を含めた組織体制のもと、創業支援に取り組む。
- ②工場等を設置する場合に、費用の一部を助成するほか、企業立地の受け皿となる遊休地情報の受発信を行うなど、企業誘致に向けた積極的な取り組みを推進。
- ③国や県の表彰を受けるなど、活躍が顕著で高い評価を受けた企業の話題を市ホームページで紹介。
- ④高校生らを対象に就職活動に役立つセミナーを開催し地元採用の拡大につながる取り組みを実施。
- ⑤静岡就職ネットで沼津市に所在する企業約100社の就職情報等を提供。
- ⑥東京都品川区に静岡Uターン就職サポートセンターを開設し、県内への就職相談を実施。

Q：生産年齢人口の比率が低下する中、育児中の女性や高齢者等が家内労働に従事することを支援、あるいは推進することで、市内の**労働力を確保**し、これからの経済を支える重要な役割になるとともに、個々人にとっては、**社会との接点を保持する環境が整えられる**と考えるが、家内労働に対する支援は？



A：在宅ワーク、家内労働につきましては、社会との接点を持ちつつ、自宅等を拠点として仕事ができるため、子育て世代の女性や定年退職後の高齢者が活躍できる仕組みとして、労働力人口の確保における有効な手段と考えております。しかしながら、在宅ワークはハローワークでは紹介しており、また、他市の事例では、内職在宅ワーク事業として、民間事業者に委託し、近隣市町の事業者の開拓をする中で、求職者とのマッチングを図っておりますが、企業の掘り起こしが困難である上、需要が少なく、企業側と求職側との品質、納期などに対する認識の相違が課題であると同っております。今後の労働力確保に向けた取り組みについて、国・県の動向や他市の事例を調査研究する中で、必要な措置を講じてまいりたいと考えております。

今どきの「話題」特集！ 身近な話題やこれからの予定など。。。

後援会活動、いよいよ発進っ！

2月21日（土）梶やすひさ後援会として、事務所開きを執り行いました。当日は寒さに加えて風が冷たく、しかも休日にも関わらず約200名の方々にご参列いただきました。本当に、ありがとうございました。

式典では、高島宏行会長（元沼津市議会議員）をはじめ、芹澤良一副会長（東芝機械協力協同組合理事長）、垣花亮副会長（東芝機械定年者の会会長）から激励と祝辞を賜り、多数の御来賓に見守られる中、われらが「梶やすひさ」から、御礼と力強い決意表明を述べました。最後に、寒さが吹き飛ばぐらいの声で、ガンバロー三唱を行いました。



心療対話士協会認定「心療カウンセラー」になりましたっ！

2014年の夏頃から、梶やすひさ議員は自身のスキルアップのため、心療対話士協会の石井理事長の下で「心療カウンセラー」を目指して学び、努力が実を結び資格認定を受けました。

精神疾患により医療機関にかかっている患者数は、近年大幅に増加しており、依然300万人を超えています。中でも、うつ病や認知症などは著しく増加しています。企業や地域、老若男女、人や場所を選ぶことなく、梶やすひさ議員は相談者の声に耳を傾け、いつも寄り添うような対話活動に取り組んでおります。



日本沼津災害救援ボランティアの会

3月1日（日）アーケード名店街で恒例の「ついたち市・朝市」の一角で、梶やすひさ議員は日本沼津災害救援ボランティアの会の一員として、東北支援募金活動に取り組みました。「3.11」から4年。東北の被災地では、未だ災害の爪痕が残っており、支援を必要としている人が数多くおります。梶議員は「私は、わずかな事しかできないけれど、一人の人間として支援し続けたい。」と、日頃から東北のみならず、様々な被災地支援を呼びかけています。



フェイスブックにもご注目っ！

梶議員の日々の活動や市政、地元や子育ての事など、様々なジャンルでアップしております。覗いてみてくださいネ！

Facebook